

宇部市文化振興まちづくり審議会 第1回会議概要

日 時：平成26年(2014年)6月24日(火) 14:15～15:45

場 所：宇部市文化会館 2階 第2研修室

出席者：委員10人

事務局：片岡総合政策部部長、庄賀総合政策部次長、
藤永文化・スポーツ振興課長、小林文化・スポーツ振興課長補佐、松井文化振興係長、村上係員

その他：報道機関1人、傍聴者0人

1 会長及び副会長の選出

委員の互選により、会長を福田委員、副会長を脇委員とすることに決した。

2 議事

(1)「煌くまち 文化振興ビジョン」について

事務局から、まず、文化振興ビジョンの上位計画である第四次宇部市総合計画中期実行計画が平成26年2月に策定されたことに伴い、その内容及び文化振興ビジョンとの関係について説明を行った。

続いて、「煌くまち 文化振興ビジョン 個別事業進行管理資料」に基づき、文化振興ビジョンに定める個別事業について、平成25年度の実績と平成26年度の方向性についての全体説明を行った。

また、事前に委員の一人から質問されていた「美術館建設検討事業(C-2)」について、市としての考えを説明した。

引き続き、各委員より意見が出された

(会 長) 「ヒストリア宇部管理運営事業(B1-13)」の『ヒストリア宇部』については、今年度で現在の指定管理者の指定期間が終了し、来年度から次の指定管理期間が始まるということか。指定管理期間はどのくらいか。現在の指定管理者はどこか。

(事務局) 現在の指定管理者は「タグボート」であるが、今年度で5年間の指定管理の期間が終了する。来年度から5年間の指定管理者については、今年度に公募し決定する。

(委 員) 街を歩いていて、彫刻の設置場所について、もっと目につく場所に設置するとよいのに、と感じる彫刻がある。よく考えて彫刻を設置し

てほしい。

(会 長) 《彫刻アピール事業 (A-1)》で、彫刻の設置計画を考えていかれてはと思う。彫刻を1か所に集約する考えや、街中に点在する考えもあると思う。

(委 員) 彫刻については、市民が彫刻に親しんでいるのか疑問に思う。例えば、作者の制作意図がわかるともっと親しめると思う。個人的には彫刻は1か所にまとめた方がいいし、設置方法も考えていく必要がある。市民の目を彫刻に向けさせる仕組みが必要である。

(副会長) ボランティアガイドをしているが、常盤公園に初めて来た方は、彫刻に触れていいということにとっても驚かれる。一度ボランティアガイドの案内を聞いてもらえれば、見るだけでない彫刻の楽しみ方もわかっていただけたらと思う。

設置場所については、彫刻設置委員という方々の協議によって場所を決めており、地元の意見も大いに参考にしていると聞いている。

(会 長) 彫刻を創った方は、今の設置場所をイメージして作品を作ったわけではないので、設置場所とのミスマッチも生じるのではないかと思う。箱根町の「彫刻の森美術館」や、「札幌彫刻美術館」「札幌芸術の森野外美術館」などをもつ札幌市のように、ある程度彫刻を集約したほうがいいのではないか。そうすれば、《常盤公園にぎわい創出事業 (B2-重Ⅲ)》につながると思う。

(委 員) 《うべ元気ブランド育成事業(B2-4)》についてだが、「うべ元気ブランド」として何が認定されているのか、宇部市民でも知っている人が少ない。「宇部ラーメン」も市外の方に聞いて初めて知った。冊子やチラシが市民の目に触れるところにあるといい。

(委 員) 文化振興ビジョンに、ストーリーが見えない。この事業をするとどういう成果が、どういう形で表れるかが見えない。彫刻についても作成者の顔や思いなどが見えない。あと一歩いいものを作るとすれば、ストーリー性を持たせることが大切だ。

(委 員) 中期実行計画に、「スポーツの推進」が掲げられているが、ここでいう文化に「スポーツ」は入らないのか。

(事務局) スポーツに関しては、文化振興ビジョンとは別の計画としてスポーツ振興計画があり、その計画に基づき、スポーツ施策を展開している。

(委 員) 文化振興ビジョンには、ハード事業は《ふるさと学習館建設事業 (B1-15)》くらいしか挙がっていないが、文化振興は、ソフト面の事業がメインとなっているのか。

(事務局) 文化については、ソフト事業がメインである。

(委員) 文化振興ビジョンでは、宇部市のまち全体の中で文化を考えており、教育現場で通常思い浮かべる「文化の教育」よりさらに広範囲にわたり、スケールの大きさを感じるが、子どもたちや学校と密接した事業を充実させれば未来につながると思うし、文化の底上げができると思う。

(委員) 私も、子どもの伝統文化事業が気になる。彫刻が根付いていないのも、幼児期からの触れ合いや体験がないからと考えている。

事業が細切れになっているようにみえるので、一貫性のある事業にすると良いと思う。

(会長) 文化振興ビジョンの施策の方向性や個別事業には、文化振興と文化教育の観点が入っている。学校で行う「文化教育」は国の定める教育課程に基づいており、文化振興ビジョンの「文化教育」と一緒にしてはいけないと思う。

また、文化振興ビジョンにストーリーがみえないことについてだが、ビジョンを作成したときは、自分もその作業に加わったが、それまで個々に行っていた文化に関する事業を整理・分類して体系づけ、共通認識を図ったという経緯があり、確かにストーリーについては議論していない。

しかしながら、例えば彫刻について言えば、彫刻で産業や観光を振興していこうと、「UBE ビエンナーレ世界一達成市民委員会」などが提言や活動を行い、盛り上げようとしている。

また、昨年立ちあがった宇部市文化創造財団については、宇部市が行っていた文化事業を移行して、文化事業を自立させていくという流れである。ビッグイベントである彫刻事業はまだ移行していないが、だんだんと事業が移行していくことも考えながら、この審議会での議論を進めていきたい。

彫刻についても、予算の問題はあるが是非続けてほしいし、20～30年先のための教育も合わせて大切だろう。

また、事前質問に出た《美術館建設》については、慎重に考えたほうがいいと思う。箱を作るのは簡単だが、私が知っているシンガポールや韓国の美術館の例をみると、維持するのが難しい。また、収蔵する中身も考えないといけない。

(委員) 美術館の建設にはお金がかかるが、宇部市には、記念会館等を企業などが寄附した歴史がある。彫刻は、50年たつと、それだけで現代彫

刻ということでは他の街にないような財産である。また、文化的・美術的価値のあるものが個人の手元で眠っている可能性も高い。

美術的・音楽的に価値のあるものが、そのままになっていたり、流出させたりせず、いかにマネジメントするか、というのが大事だと思う。

ソフトがこれだけあるのに、それが向かう方向性が見えない。見える形を作っていけばいい。例えば、それが美術館だと思う。美術館に行けば、彫刻があり、そこには、価値のある人、価値のある物が一つのゾーンにあり、休みにはそれが見られる。

(会 長) 美術館には、所蔵することと展示することと、そして、それによって人を育てるという機能がある。今の意見は、所蔵する中身から考えていくということだと思う。

(2) 今年度の審議スケジュールについて

事務局から、次回開催予定について説明した。

(3) その他

(委 員) 俵田邸にまつわるお話をさせてほしい。昨年開催したピアノのイベント時に、来日した2人のアーティストが、自分たちが尊敬するアーティストが昔来ていると言うので、俵田邸に案内した。俵田邸では、目当てにしていたアーティストのみならず、自分たちの師匠も宇部に来ていることを知り、驚くとともにとても喜んでいて。海外の人たちが宇部に来たときに、そういうところをみて驚くということを知った。宇部市民でいると全く価値がわからないけれども、俵田邸の例のような文化振興につながるものを取り込んでいけばすばらしいと思う。

最後に、事務局より、財団に関する資料について、説明を行った。

以上